

ろんだん
佐賀

池松 英治さん

ひよ子こども園かみみね園長

いけまつ・ひではる 1969年福岡県久留米市生まれ。佐賀大教育学部卒。クオリティゼミナール塾長・ひよ子こども園かみみね園長。2025年から同こども園グループ4園の統括園長。幼児から大学受験生まで個々の成長に合わせて教育する。佐賀市。

学習でも保育でも、「できないことを求めすぎている」場面に、私は何度も出会ってきました。

子どもの成績を伸ばす秘訣の一つは、「その子に合わせてあげる」ことだと私は考えています。一見すると当たり前のように聞こえますが、実際には奥の深い技術です。私は20年以上、子ども一人ひとりと向き合い、保護者の方からお子さまの育ちを丁寧に聞き取りながら指導してきました。

伸び悩む背景には、どこで学びが止まっているのかわからないまま時間だけが過ぎていくことがあります。しかし、親からは「やる気がない」、先生からは「課題を提出しない」といった言葉が聞こえてきます。子どもは苦し

伸ばす秘訣

無理のない場所から力は戻る

くなるばかりです。どこで分からなくなっているのかを正確に見抜き、そこまでさかのぼって教えてあげる。そして「心の働き」を整えてあげる。そうすると、止まっていた子どもが再び歩き始めるのです。

ある生徒さんは高校2年生から不登校に。しかし塾には来ることができました。学べる場所が「ここ」だったので。焦らず、その子の歩幅に合わせて学びを積み重ねました。すると少しずつ自信を取り戻し、学ぶ力が育っていききました。決して順調な道のりではありませんでした。それでも今年、福岡大学4学

科すべてに合格しました。しかも特待生としての合格です。後日、お母さまから「まさかこんな日が来るなんて」という感涙の手紙を頂きました。

ひよ子こども園には、小学校へ通えない卒園児が来ることがあります。学校には行けなくても、ここには来ることができると。その子にとって、動ける場所が「ここ」なのです。「その子に合わせて」とは、無理に正解の場所へ連れ戻すのではなく、その子が踏み出せる場所を大切にするのだと思います。中には、学校を休んでこども園で過ごしている姿を見て、

甘やかしていると思う大人もいるかもしれません。しかし私は、子どもに正解の場所への一歩を急がせるよりも、まず動き出せる場所を用意する人でありたいと思っています。

卒園児にとって、こども園はエネルギーを取り戻せる場所なのです。こう考えるのは、不登校の家庭を幾度となく訪ね、ご家族が追い詰められていく姿を見てきたからです。だからこそ私は、「今はここでいいよ」と言える場所の大切さを信じています。大人でも、自分の能力を超えた仕事を求められ続ける

す。これは保育の現場にも、そのまま当てはまります。以前は、お遊戯会などの行事前になると退勤が遅くなり、当日の朝に体調を崩してしまう職員も。今振り返れば、適切なマネジメントができていませんでした。また、翌月のシフトが月末にならないと分からず、家族の予定さえ立てられない状況もありました。

「これは今の時代の働き方だろうか」と自問しながら改善を重ねてきました。今では本番前日も定時で退勤し、翌月のシフトや月次決算も10日の段階で整うようになりました。生徒も、保護者も、職員も、無理のない場所に立てたとき、静かに力を取り戻します。私はその姿を、学習と保育の現場で見守り続けています。

